

## 「三重学」と持続可能な三重創生戦略

地域イノベーション学研究科 | 朴 恵淑(教授)

地域の環境問題でありながら国境を越える環境問題となる(越境性)大気汚染、黄砂、PM2.5の発生メカニズム、人間を含む生態系への影響、環境と経済のバランスからなる持続可能な社会の構築、環境政策、次世代を担う環境人材育成、アジア諸国との国際環境協力のレジーム構築を研究テーマとしています。

また、地球規模の環境問題として最もその影響が懸念される気候変動(地球温暖化)による三重県の影響、適応、環境政策、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)の分析による環境外交を研究テーマとする環境地理学(Environmental Geography)研究を行っています。

### ■ 1. 四日市公害から学ぶ「四日市学」と「三重学」

日本の高度経済成長を支えた1960年代の日本初の四日市石油化学コンビナートからの大気汚染によって環境が破壊され、尊い命が失われた四日市ぜんそく(四日市公害)の過去・現在・未来を見据え、環境と経済とのバランスからなる持続可能な社会創りの有効なツールとしての四日市公害から学ぶ「四日市学」は、人間と自然(環境)との関係を探る環境地理学の大きな命題となります。四日市公害から学ぶ「四日市学」は、平成12年4月に本学の人文社会科学・自然科学・工学・医学を網羅する学問横断的総合環境学として構築され、現在まで9冊の「四日市学」関連の書籍が出版されました。また、平成16年4月に教養教育機構において四日市公害から学ぶ「四日市学」が開講され、ユネスコが推進する持続可能な開発のための教育(ESD)のトップランナーとして実績を上げています。

「四日市学」は、次の4つの側面からの研究を行っています。(1) 四日市公害は解決済みの過去の問題ではなく、現在進行型の環境問題であり、命の尊厳や自然は誰のものかを問う「人間学」(2) 環境と経済との調和を図る持続

可能な社会システムを提案する「持続可能な未来学」(3) 四日市公害を経験していない次世代へ問題解決型、体験型教育のツールとなる「持続可能な開発のための教育(ESD)」(4) 経済成長に伴う環境問題が最も懸念されるアジアの新興国と国際環境協力を行う「アジア学」。「四日市学」は、四日市公害を過去の負の遺産から未来へ正の資産に替えるため、地域の産官学民との連携および国際共同研究による科学的評価による国際環境協力のレジームの構築、グローバル環境人材を育成する専門家による認識共同体としての役割を担うことで、三重から世界へ通用する「三重学」として発展的展開を図っています。



「三重学」(朴 恵淑編著、風媒社、平成29年3月30日発行、359ページ)

### ■ 2. 「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)」

#### 「伊勢志摩サミット」・「桑名ジュニアサミット」と「三重学」

平成27年11月30日から12月12日にフランスのパリにて、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21; パリ会議)が開催され、私は、国際環境NGOの代表として参加しました。パリ会議は、平成9年12月に採択された京都議定書以来となる、地球温暖化防止に向けた新たな法的拘束力をもつ国際合意の「パリ協定書(Paris Agreement)」の採択に成功しました。「パリ協定書」の重要な意義として、次の5つが挙げられます。(1) 地球の平均気温上昇を2℃未満のみならず、1.5℃に向けて今世紀末までに二酸化炭素をほぼゼロ排出にさせる中期目標の設定(2) 各国の目標や行動を5年ごとに提出・見直しを行い、長期目標に向けて後退することなく引き上げていく法的拘束力のある仕組み(3) 先進国は発展途上国へ支援資金の提供(4) 排出削減のみならず、適応、損失と被害、技術移転、資金供与などについて先進国の責任や役割および途上国の

役割についても適切に盛り込んだ包括的な協定(5) 各国の行動は国別約束のもと、平成32年までに正式に提出する。

国連の会議には、政府関係者や国連機関の関係者が主な役割を担う一方、若者や地方自治体の関係者は、オブザーバーとしての参加に限られていましたが、パリ会議では、若者・女性・地方自治体へ期待が例年になく大きくクローズアップされました。このような動向は、平成28年4月の「桑名ジュニアサミット」および5月の「G7首脳会議(伊勢志摩サミット)」の舞台となった三重県や本学においても、次世代を担う若者の考えや行動を世界に発信し、行政の環境政策立案に反映できる好機となり、持続可能社会、二酸化炭素排出ゼロ社会、脱炭素社会を目指し、「桑名ジュニアサミット」および「伊勢志摩サミット」のレガシーを未来へ活かす持続可能な三重創生戦略に、「三重学」の役割がさらに重要視されています。